

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成23年7月4日（月）～7月10日（日）〔平成23年第27週〕の感染症発生状況

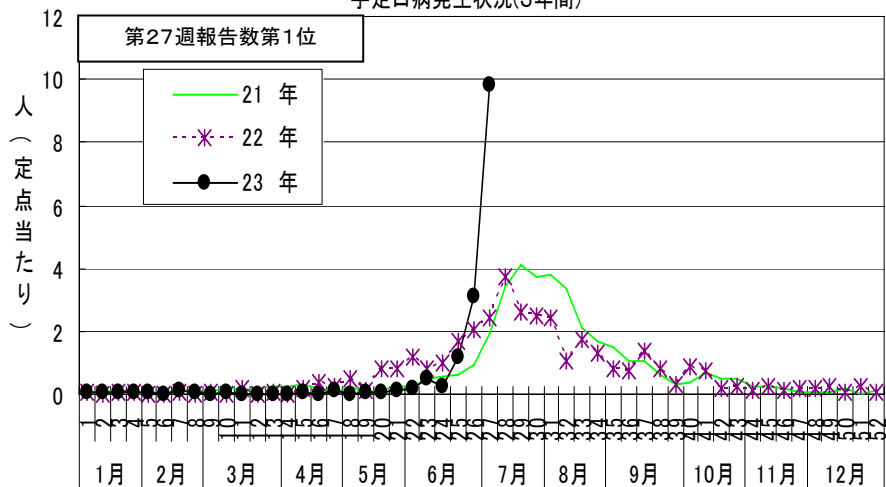
第27週で定点報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナでした。

手足口病は定点当たり9.81人と前週（3.13）より患者報告数は急激に増加し、平成11年のデータ収集以来、過去最高の患者報告数となっています。例年7月から8月にかけて報告数が多いため、今後の発生動向に注意が必要です。

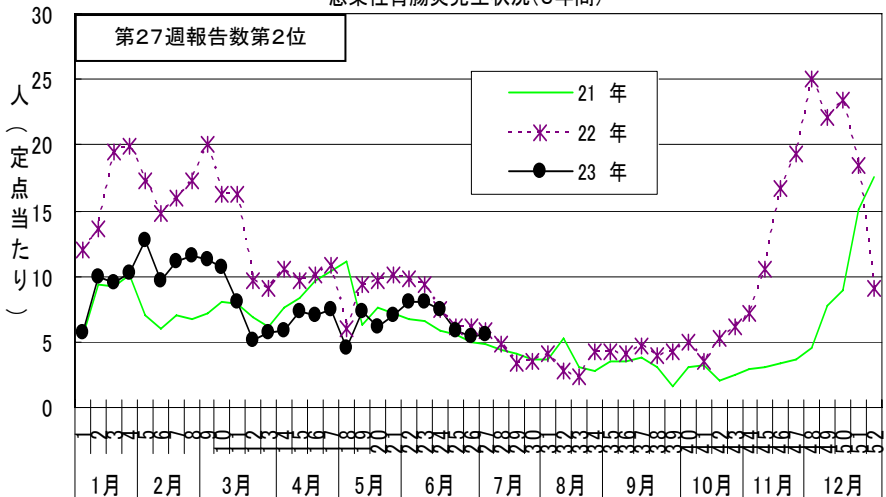
感染性胃腸炎は定点当たり5.53人と前週（5.41）から患者報告数は横ばいで、例年並みの推移となっています。

ヘルパンギーナは定点当たり3.25人と患者報告数は大幅に増加しています。手足口病と同様に夏かぜの代表疾患ですので、夏期に向けて一層の注意が必要です。

手足口病発生状況(3年間)



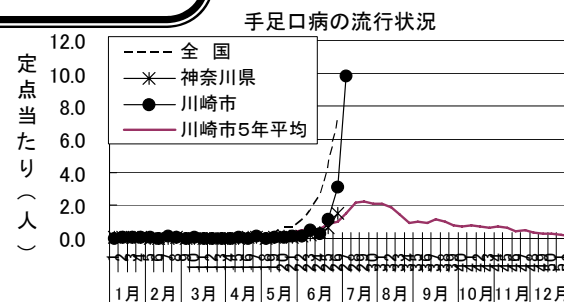
感染性胃腸炎発生状況(3年間)



手足口病が過去最大の報告数！！

乳幼児を中心に例年夏期に流行するウイルス性疾患「手足口病」の患者数が、前週に引き続き、例年を上回るペースで増加し、過去最大の報告数を記録しました。今後もさらに患者数が増加する可能性がありますので、発生動向に注意が必要です。

右のグラフのとおり、全国的にも報告数が急増しており、本市と同様に過去最大の報告数となっています。



手足口病ってどんな病気！？

手足口病は、ウイルス感染によって発症し、口の中や、手足などに水疱性の発疹が出る感染症です。例年、報告数の90%前後を5歳以下の乳幼児が占めています。

病気の原因となるウイルスは、主にコクサッキーウイルスA16、エンテロウイルス71（EV71）で、その他コクサッキーウイルスA6、A9、A10などが原因になることもあります。

一般的な感染対策は、接触感染を予防するために手洗いをしっかりとすること、排泄物を適切に処理することです。

感染症予防の基本は『手洗い』です！



～コクサッキーウイルスA6(CA6)に注意！！～

左にも記載したとおり、手足口病の原因となる代表的なウイルスは、コクサッキーウイルスA16とエンテロウイルス71ですが、今年はコクサッキーウイルスA6（CA6）という型のウイルスの感染が拡大しています。本市においても、今年提供された検査検体が5件あり、その全てにおいてCA6が検出されました。

手足口病は一度罹患すれば、その原因となったウイルス型に対する免疫が得られます。しかし、異なるウイルス型に感染した場合は手足口病を再度発症することがあります。

については、今年の流行の主な原因となるウイルス型が例年とは異なることから、過去に手足口病にかかったことがある方でも、再度手足口病を発症する可能性がありますので、感染予防対策を徹底することが重要です。